「チーム論述書」 様 式

チーム番号（5）
研究テーマ名　日常が宝になる時ー関係性から生まれる地域の希望ー

日常が宝になる時（関係性から生まれる地域の希望）

少子高齢化で地域の過疎化が進む中、大豊町に暮らす住民が今の暮らしに誇りを抱く姿から、日常に潜む価値を未来へ継承すべきだと考えた。見えづらく、意識していない地域文化・歴史・自然・人を地域の未来の希望としてどう活かしていくのかを問う活動報告である。

1. 地域の魅力をどう発掘し、どんな仕組みで未来へ継承していくのか

住民が今の姿を守りたいと語る誇りから日常の価値を再認識し、行政主導で構造化された馬路村と比べ連携が弱い大豊町では、点在する活動をつなぎ"日常の宝"を面として活かす仕組みが必要だと考えた。

2. 日常に潜む価値への気づき

2-1 大豊町の日常に宿る「宝」と現状の課題

調査を通じて、四季とともに受け継がれてきた暮らしの知恵や文化、人の助け合いといった"大豊町の日常"が地域の宝だと確認した。一方で、行政の取り組みが見えにくく、活動者の存在も知られにくいなど、住民・行政・活動者が想いを共有する場が不足している課題が調査からは明らかになった。また、行政主導で循環が生まれている馬路村に対し、大豊町は活動が点在し連携が弱いという構造的な違いも確認された。

2-2 WHY・WHICH の整理と施策の核の明確化

ワークショップでは、まず「WHY」として地域の宝とそれを守る人の想いを構造化し、点の活動を面として循環させる目的を定義した。続いて「WHICH」として、宝と人の関係性を中心に、感謝や共感が行動につながり住民と来訪者が Win-win になる構造を重視した。これらを軸に、再度現地でインタビューを実施し、「今ある価値を構造として未来へつなぐ」という施策の核がより明確になった。

2-3 未来へ向けた統合的施策設計と"挑戦が連鎖する環境"づくり

最終的に、地域の日常を宝として再定義し、その価値を次世代へ継承するための施策を統合的に検討を進めた。例として、地域の中で「助けあい」という気持ちが自然に生まれ、その思いに応えられる環境が整うことで、人は自分のやりたいことに挑戦しやすくなると考えられる。こうした"やりたい人が頑張れる環境"が広がれば、前向きな行動が連鎖し、挑戦や助けあいが伝播する循環が生まれる。この循環を支える前提として、住民の声に寄り添いながら地域の宝を未来へ残し、今暮らす人々の幸福度を最大化することが重要であると整理した。

3.誰にどんな価値を届けたいか

3-1 価値をつなぐエコシステムの構築方針

新たな施設ではなく、既存の価値同士を結びつけて点を面にし、未来へ継承するエコシステムをつくることを重視した。6 つの施策が関わる人に応じて連動し、互いの効果を高め合う自走型の仕組みを目指す。

3-2 6 つの施策が生む価値の連鎖と循環

２つの起点施策と４つの展開施策が相互に作用し、直接効果と相乗効果を生みながら、大豊町の価値を未来へ継承し、関係人口を広げるエコシステムを形成・循環させていく。

以上